

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	F05
プログラム名称	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム		
プログラム責任者	神保 文夫	プログラムコーディネーター	松浦 好治

(評価決定後公表)

(総括評価)

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、学生の自主的な企画力、英語による討議能力・ライティング能力の高度化に力を入れ、また学生に国際機関や海外研究機関等でのインターンシップ、国際会議での報告、海外での研究調査を経験させることに努めている点では十分評価できるが、本プログラムが養成しようとする「法制度設計・国際的制度移植専門家」に必要な、継受法と伝統秩序の衝突など制度移植固有の諸問題を理解し解決する能力の養成がどの程度進んでいるのかは、まだ明確ではない。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、企業インターンシップ経験学生がいなかった点に不安があったが、学内のビジネス人材育成センターを通じた企業との交流会を実施するとのことで、この面の改善が今後期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、現プログラムコーディネーターの強いコミットメントと実行力は明確に示され高く評価できるが、他のプログラム関係者の主体的・積極的なコミットメントをもっと強く引き出す努力や、現プログラムコーディネーターの任期終了後の後継指導者育成の努力も求められる。グローバルな環境整備という観点については、海外の研究者・実務家を招聘して学生のためのセミナーや講演を積極的に行っている点は評価できる。

優秀な学生の獲得については、多くの意欲的な留学生を多様な地域から集めている点は高く評価できるが、日本人学生はいまだ 17 名中 6 名に過ぎず、留学生と日本人学生の比率 1 対 1 という当初目標に近づくために日本人学生を増やす一層の努力が強く求められる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、修士論文を英語論文とし、英語論文のライティング指導体制を整備している点は評価できるが、修士論文の位置づけや評価資料としての妥当性、博士論文の学術的レベルの保証などについては未だ明確ではない。客観的な評価基準の整備と手続について早急な具体化が望まれる。

事業の定着・発展については、学生との意見交換で財政支援の潤沢さが本プログラムの魅力と答えた学生が多かったが、支援期間終了後の本事業の財政的持続可能性をどう担保するのが十分明らかにされておらず、この問題を解決する工夫が求められる。